

中央大学 2026 年度一般選抜

【出題の意図】

試験日	2026 年 2 月 10 日
学部・試験方式	文学部
科目	国語

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

一

本文は、遠藤知巳「メディア的「現実」の多重生成、その現在形—クイズ形式からの観察」(石田佐恵子・小川博司編『クイズ文化の社会学』世界思想社、2003・3)からの抜粋である。出題箇所は、クイズ形式の知とニュース報道に代表されるマス・メディアの知との共通性を指摘した上で、メディア的な知や情報の特徴について指摘した部分である。クイズやニュース報道という身近な話題を取り上げた本文によって、文章内容や論理構造を理解する力を問うとともに、受験者が身のまわりに流通している情報の特質を考える契機となるよう問題を設定した。

問一では、漢字の知識を問う。問二では、本文内容を的確に理解しているかを問う。問三では、本文読解の鍵となる語句の理解を問う。問四では、本文で使用されている記号表現の働きを理解しているかを問う。問五では、本文の主張の理由について正確に理解しているかを問う。問六では、本文内容を的確に理解しているかを問う。問七では、本文の主張の理由について正確に理解しているかを問う。問八では、ここまでの本文内容を踏まえた上で、クイズ的な知の形式の特徴を理解しているかを問う。問九では、本文全体を通して、本文内容を理解しているかを問うものである。

二

本文は平安時代の歴史物語『栄花物語』の一部である。出題箇所は、実際におこった出来事を時間的に配列する平易な古文である。古文に関する、基礎的な文法知識(問一)と語彙知識(問二)を確認する。また、登場する人物それぞれの立場・思惑があるが、物語の叙述からそれぞれの心情を読み解く読解力を問うている(問三～問六)。

三

本文は蘇軾の七言古詩である。漢詩には字数・対句・平仄・押韻などのルールがあり、重複や過剰な修飾を避けた簡潔な表現がなされる。本題では、さまざまな制約の下に作られる漢詩の読解能力を問う(問一、問四、問五)。あわせて、押韻のルールに対する理解度(問三)、疑問詞を含む表現(問二)に関する漢文法の習熟度を問う。